



活躍の現場から



● ALTと一緒に最高の学習環境を作る

—— 埼玉県立伊奈学園総合高等学校

ALT と高度なレベルの学びを実現

本校で3年間フランス語を学ぶ生徒のほとんどは、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) のB1 (自立可能なレベル) に到達します。短期間でそこまで生徒を伸ばすために、ALT (外国語指導助手) の存在は欠かせません。担当教諭と教育理念や指導目標、指導方法などをしっかり話し合い、丁寧に関係を築き、ALT といかに教育観を共有して良いチームを組めるかが教育効果に大きく関わります。今の担当教諭も ALT のクリストフとも阿吽の呼吸で授業ができるようになりました。

ALT と一緒に作り上げる授業

アルファベットから始める1年生の授業こそ一番大事です。発音に変な癖がつかないように最初から正しい発音にこだわります。ALT は生徒を褒めながら上手に発音のコツをアドバイスしています。また、表現方法も重要で、同じ文でもイントネーションやポーズ、声のトーンや顔の表情を変えるだけで伝わり方が全く違ってきます。ALT はまさに表現豊かに話すお手本を示してくれます。

1時間フランス語しか使わない授業にも1年生のうちから挑戦させます。ALT がメインで文化を紹介する授業では、ジェスチャーやイラスト、音声やビデオを用いて、フランス語だけでも理解できる工夫をします。最初は混



授業風景

乱も生じますが、初級者の自分が「フランス語だけの授業が分かった」、「フランス語を使って質問ができた」経験は、生徒の大きな自信につながります。

2年生の授業では、3月のフランス短期留学で生徒が遭遇しうるさまざまな困難な場面を演じる活動を行います。ALT を相手に演じることで生徒たちはコミュニケーションや文化の違いにおいて配慮すべき点に気づきます。ALT がいるからこそ、生徒たちは実践に近い形でフランス語を使うことができます。

3年生の授業では、時事問題を取り上げます。最近ほ



1年生との最後の授業で



フランス語合宿での授業

環境運動に参加するベルギーやスイスの若者のインタビューを紹介し、それに対する意見をシェアしました。最初は苦勞しても、生徒たちは徐々に自分の持つフランス語の語彙で意見が言えるようになり、次第に批判的精神や論理的思考力も身につけていきます。



フランス語合宿での言語活動

ALT と異文化間能力を養う

生徒たちはフランス語を通して日本とも英語圏とも異なるフランス語圏の文化を学習します。外国人と接する際、相手の文化的背景を知っておくことは欠かせません。また、生徒たちの世界や日本を見る視点を増やすねらいもあります。ALT はいつも生徒たちに異なる視点をもたらしてくれます。自分の文化や社会を客観視し、他の文化や社会と比較分析ができれば、ひとつのものさしを絶対視することがなくなります。そうすれば、言語や文化の違いにとどまらず、世代や性別、職種など、自分と異なる人との違いを尊重し、その違いを乗り越えて関係を築けるような人間に成長するのではないかと思います。

生徒たちの活躍を大きく支える ALT

日頃の指導の成果が目に見えて表れるのがコンクールです。本校の生徒は、東日本の高校生対象の暗唱やスケッチ（＝寸劇）のコンクール、社会人や大学生も参加する日仏会館主催フランス語コンクールなどで常に上位に入賞します。日仏修好160周年だった昨年度は、本校の生徒が日本の高校生代表としてパリ日本文化会館に招かれ、全仏高校生日本語プレゼンテーション発表会で、日仏交流に貢献した人物をテーマにフランス語で発表を



3年生の最後の授業で

し、好評を博しました。

このような生徒たちの華々しい活躍は、生徒の成長を信じて熱心に指導してくれる ALT に大きく支えられています。コンクール以外にも短期留学の事前指導、検定や推薦入試の対策、受け入れ留学生のサポートなど、実に多くの業務を担っています。教育効果を上げるために日仏の教育文化を分析して授業に活かすなど、非常に高い意識で指導に当たっています。さらに感心するのは、フランス語以外の業務も進んで手伝って、他の教科の先生方とも大変良好な関係を築いていることです。このように今までのフランス人 ALT が築き上げたものを是非これからも大切に受け継いでいって欲しいと思います。



東日本高校生フランス語暗唱コンクール1・2位を受賞